



グローバルリスク研究センター設置について



for
Planetary Health,
nagasaki university

長崎大学は、人類と地球の抱える多様で相互に関連する問題群の解決に向けて、学際的にその知を結集・創造し、国内外の諸機関等との連携をはかりつつ、プラネタリーヘルスの実現に貢献する世界的“プラネタリーヘルス”教育研究拠点となる。【第4期中期目標：基本的目標より抜粋】

※ プラネタリーヘルスとは、地球温暖化や自然災害などの環境問題、生物種の絶滅・生態系異変、エネルギー資源枯渇・水資源食糧問題、経済格差拡大、新型コロナウイルス感染症パンデミック等の様々な地球上の問題やそれらに関連した人類社会における諸問題を解決するための人間の意識変容や行動変容を促す仕組みのことである。本学は、SDGs がゴールと定める2030年以降もSDGsによって得られた成果とシステムを維持・発展させ、地球の健康（プラネタリーヘルス）を支えるための答えを探求する“SDGsの一步先”を見据えた取組みを行っている。

▶ プラネタリーヘルス実現に向けた研究の展開

本学は、熱帯医学・感染症、放射線医療科学分野において卓越した研究実績を誇っており、第3研究のコアとして総合海洋研究を推進してきた。これらを基盤に実学系10学部、6研究科、2研究所等が融合研究を展開する。

世界的“プラネタリーヘルス”教育研究拠点の形成のための3つのキーワード

✓ グローバルヘルス ✓ グローバルエコロジー ✓ グローバルリスク



グローバルリスクの最先端研究
の一翼を担うために

グローバルリスク研究センター
Research Center for Global Risk
(略称：CGR)

2024年6月1日設置

<設置目的>

- ✓ 原爆ヒバクの経験を有する長崎大学の歴史とこれまでの平和教育・核兵器廃絶研究において独自に継続的な取り組み行ってきた長崎大学の強みを活かしつつ、人文社会科学的叡智を統合し、核の使用リスクや地球環境破壊、パンデミックなど人類の存続に影響する地球規模のリスクについての学際的研究を推進し、人類が安全で平和に存続できるプラネタリーヘルスの実現に貢献する。
- ✓ 国際的に連携あるいは共同研究を実施し、国際社会へのさまざまな提言と共に次世代の研究者、政策立案能力のある専門家、国際社会におけるリーダーの育成を行う学際的研究創発の場を形成する。

<基本方針>

- ✓ 人文科学（哲学、倫理学、宗教学など）や社会科学（経済学、政治学、安全保障学など）、データ科学からのアプローチを含み、分野融合的な統合的理解を深める。
- ✓ 科学的理解を深めかつ研究成果に基づく社会への貢献を現実化するため、リスクアセスメント、リスクマネジメント、リスクコミュニケーションを探求する。
- ✓ 地球規模の巨大なリスクの相互関連性と、一つのリスクが他のリスクの引き金となる相互連鎖性を主な研究対象とする。
- ✓ 巨大リスクほどのプラネタリーヘルスへの直接的・短期的なインパクトはないが、発生場所がどこであっても、リスクの負の連鎖が巨大リスクへの拡大につながるものが強く懸念されるグローバルリスクの相互連鎖性の研究に取り組む。

<グローバルリスク研究センター>

センター長 岩下明裕 教授
(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターとのクロスアポイントメント適用)

副センター長
西田 充 教授 (多文化社会学部)
春日 文子 教授 (熱帯医学・グローバルヘルス研科)
樋川 和子 教授 (核兵器廃絶研究センター)

<参画教員>

多文化、経済、情報、環境、TMGH、原研、熱研、RECNA



※ 参画教員については、学内の各部局へ公募を実施
また、参画教員は、必要に応じてグループを形成し、プロジェクト研究を実施

連携・協力

海外機関

- ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院 (London, 英国)
- UNIDIR国連軍縮研究所 (ジュネーブ, スイス)
- SIPRIストックホルム国際平和研究所 (スウェーデン)
- Council on Strategic Risks (米国)
- International Institute for Applied Systems Analysis (オーストリア)
- Global Governance Forum
- Future Earth
- Planetary Health Alliance (予定)

国内機関

- 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター
- 福島国際研究教育機構 他